

(参考様式5)

事業活用活性化計画目標評価報告書

計画主体名	計画主体コード	計画番号	計画期間	実施期間
静岡県 静岡市	220001 221007	1	H21～23年度	H21年度
活性化計画の区域				
静岡県 静岡市 大河内地区				

1 事業活用活性化計画目標の達成状況

事業活用活性化計画目標	目標値A	実績値B	達成率 (%) B/A	備考
地域農産物の販売額の増加	7.10%	△0.75%	△10.56%	

(コメント)

地域農産物の販売額の増加は、目標を達成できなかった。

○計画時の地域農産物の販売額 (単位：千円)

	H18	H19	H20	合計
販売額	71,568	68,666	67,071	207,305

○計画中の地域農産物の販売額 (計画と実績) (単位：千円)

	H21	H22	H23	合計
計画	69,981	74,175	77,878	222,034
実績	62,873	72,432	70,442	205,747

2 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果

事業メニュー名	事業内容及び事業量		事業実施主体	
農林水産物直売・ 食材提供供給施設	農林水産物直売・飲食提供施設整備 1棟 (185.45㎡)		真富士の里運営委員会	
管理主体	事業着工年度	事業竣工年度	供用開始日	
真富士の里運営委員会	平成21年度	平成21年度	平成21年11月3日	
事業の効果				
H21は、利用者数が、前年度より6,500人余増加したが、客単価が下がったため、当初見込んだ販売額に達しなかった。その後客単価が減少傾向となった。 平成23年度は、東日本大震災の影響による観光バスツアーの入り込み客減少が、販売額の減少につながった。販売額は減少したが、交流人口は全体的に増加の傾向である。 厨房や食堂スペースの整備により、食堂部門の充実が客足増加の要因と思われる。 交流人口の増加が地域に刺激を与え、従前以上の地産地消システムを推進した。				
直売施設の利用者実績				
H19～20平均	H21	H22	H23	H21～23平均
67,300人	69,500人	86,600人	79,400人	78,500人

3 総合評価

(コメント)

交流人口が増加したことで、一定の成果をあげている。

売上が目標に届かなかった理由は、客単価が下がったことと、東日本大震災の影響による観光バスツアー客の減少及びイベントの自粛が販売額の減少につながったものと思われる。

部門別（販売部門や食堂部門など）の販売額などをよく分析し、詳細を把握することを指導する。また、客単価が減少傾向にあるため、魅力ある商品開発に取り組む必要がある。併せて目標値の再確認を行い、新たな課題を自ら設定するよう事業実施主体に対し指導する。また、利用者アンケートの実施方法や内容を工夫することも指導する。

当初の目標の一つであった、農林業体験交流（イベントや体験活動）の実施については、従業員の高齢化や地域内の調整が容易ではなく、改めて地域が「できる事」を再検討するよう指導する。

以上を踏まえ、若者の地域参加を今後の課題として、更なる地域活性化を期待したい。

4 第三者の意見

(コメント)

農産物等の販売額が利用者数に比例していない事が気になります。

今後は、生産者と委員会での意見交換の場を増やし、生産目標と販売目標を決定する事や栽培講習会等も必要と思われる。

(静岡市農業委員会 農業委員 仲野益夫)

【 記入要領 】

- (1) 計画主体コード、計画番号は年度別事業実施計画に記入した番号とすること。
- (2) 「1 事業活用活性化計画目標の達成状況」のコメントには、目標が未達成となった場合は、その理由を記入すること。また、達成状況が低調である場合は実施要綱第8の2の(1)及び(2)に基づき改善計画を作成し、農林水産大臣に提出すること。
- (3) 「2 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果」は事業メニュー毎に作成すること。また、「事業の効果」には事業の実施により発現した効果（農山漁村の活性化に関連する効果）を幅広く記入すること。